


【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の怖い話
3	資料名	『ガーナー森』／ガーナー森
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	ガーナー森、ガーナムイ、那覇市指定文化財、奥武山、国場川、漫湖、名勝、天然記念物
6	説明	<p>ガーナー森は市指定の文化財（市指定名勝・天然記念物）〔指定年月日：昭和49年12月2日〕。現在は国場川河口周辺の大半が埋め立てられ、ガーナー森も地続きになり市街地に囲まれているが、戦前は国場川河口にある小島のひとつであった。</p> <p>また、数ある島のひとつでもあった奥武山（おうのやま）には、当時、龍洞寺があり、あたりは松がうっそうと生えていたといわれている。</p> <p>奥武山からガーナー森にかけての景色*¹は、<u>中山八景のひとつ「龍洞松濤（りゅうどうしょうとう）」</u>としても知られており、数々の小島や漁舟が湖に浮かび夕日で照らされる様はさまざまな書物に謡が残されている。</p> <p>ガーナー森の名称の由来は諸説あり、ガーガーとうるさい鷺鳥（ガチョウ）がいたためとか、ガーナー＝たんこぶの意など、定かではない。</p> <p>また、ガーナー森にはナハキハギ*²が群落する北限地でもあり、那覇市の天然記念物に指定されている。</p>  <p>図1. 現在の奥武山からガーナー森、漫湖のマップ</p>

奥武山からガーナー森にかけて中山八景や琉球八景の文献記述について

■徐葆光『中山伝信録』

1719年(尚敬7)に渡来した冊封副使・徐葆光(じょほこう)は「奥武山の東に小尖阜(小丘)あり。鶴頭山(ガーナー森)と名づく。(中略)那覇市近所第一の勝処たり。」と述べている。

■周煌『琉球国志略』

1756年に渡来した冊封副使・周煌(しゅうこう)の『琉球国志略』には八景の画図が掲載されており、泉崎夜月、臨海潮声、久米村竹籬、龍洞末涛、筍崖夕照、長虹秋霽、城嶽靈泉、中島蕉園の8カ所としている。

■葛飾北斎『琉球八景』

葛飾北斎は唯一の琉球風景画8組のうちのひとつに「琉球八景 龍洞松濤」(1832年頃)を残している(浦添市指定有形文化財、浦添市美術館所蔵)。八景は泉崎夜月、臨海潮声、久米村竹籬、龍洞末涛、筍崖夕照、長虹秋霽、城嶽靈泉、中島蕉園の8カ所であり、周煌の『琉球国志略』一卷に挿入されている「琉球八景図」を種本として作画されたものといわれている。

参照：『沖縄大百科事典』(沖縄タイムス社)

■袋中上人『琉球神道記』(1648年)

袋中上人*3の『琉球神道記』では八景について対象となる具体的な土地・場所を選定してそれぞれ詩を詠んでいる。洋城夕照と題された謡が奥武山からガーナー森にかけての景色を詠んだ謡である。

- | | |
|-------------|------------------|
| ①題：那覇夜雨(那覇) | ②題：景満秋月(慶満、慶良間) |
| ③題：末好晩鐘(末吉) | ④題：泊汀落雁(泊) |
| ⑤題：西崎帰帆(西崎) | ⑥題：金岳暮雪(金岳=金武山) |
| ⑦題：首里晴嵐(首里) | ⑧題：洋城夕照(洋の城=沖の城) |

*1；奥武山からガーナー森にかけての景色

現在、案内板「奥武山、小島から現在まで」が漫湖周辺の遊歩道にあり、昔と現在の様子を写真で、年を追って掲載している。



図2・案内板「奥武山、小島から現在まで」

図3．案内板「奥武山、小島から現在まで」

*2

名前に「那覇」がつく植物。沖縄島では漫湖周辺と今帰仁村にのみ自生地が知られている。葉はマメ科らしく3小葉で、若い葉は毛におおわれて白っぽく見える。花は白色で、実は節でわかれるサヤに包まれている。漫湖付近のナハキナギの自生地をたどると、昔の海岸線と一致していておもしろい。

(引用) 漫湖水鳥・湿地センター, 漫湖の植物 ナハキナギ, https://www.manko-mizudori.net/dendrolobium_umbellatum/, 2024/05/09.

		<p>* 3 袋中上人 (1552-1639) …岩手出身の浄土宗の僧で、1603 年経典を求めて渡明したが琉球に漂着し、1605 年に本土に帰るまでの 3 年間滞在した。琉球国王の帰依を受け、那覇久米村の桂林寺に住み浄土宗の布教にあたった。岩手の念仏踊りを伝え、これが現在のエイサーのルーツともいわれている。『琉球神道記』は日本の琉球関係の文献のなかでも重要な文献とされている。</p>
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	撮影者：高見鈴乃
9	時代・年	撮影日：2024/01/30 2024/05/03
10	地域・場所	〒901-0151 沖縄県那覇市鏡原町 10-3、10-7 (那覇市文化財所在地の住所)
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2024/05/04
16	登録者	高見鈴乃
17	ファクトデータ	 <p>circd084m-0011. jpg</p>
18	*特色	<p>【沖縄の怖い話『ガーナー森』】</p> <p>琉球王朝の尚敬王（しょうけいおう，1700～1751；琉球王国第二尚氏王統第13代国王，在位 1713～1751 年）の時代、那覇市の国場川近くにある森で、とても大きなガーナーというマジムンが暴れまわっていた。</p> <p>大きすぎるため人々は止めることができずに逃げ惑うばかりだった。北にあった真玉橋近くの集落に被害が及びそうになったとき、見かねた神さまは、退治するため、天からマジムンの尾に向かって岩を落とした。</p> <p>一つ目では止まらず、三つ目まで落とすと、やっとその動きを止めることが出来たという。</p>

しかし、マジムンは動けなくなったあとも口から魔風を吹き出して害を成すので、真玉橋の人々はガーナーに向かってイリヌシーサーというシーサーを設置して祀ることで封印した。

そして時が経ち、ガーナーは森になり、ガーナー森（ガーナムイ）とよばれるようになり、戦前までは国場川の中にある小島だったが、戦後の埋め立てによって現在は市街地に囲まれた場所に残っている。

■ガーナー森とシーサー

ガーナー森のある方向を睨んでいる真玉橋のイリヌシーサーと根差部のシーサーは今でも残っており、悪いことから村民を守ってくれているといわれている。



図4. ガーナー森と真玉橋のイリヌシーサーの位置関係



図5. ガーナー森と根差部のシーサーの位置関係



図6. イリヌシーサー



図7. 根差部のシーサー

■那覇市文化財の指定等に関する基準

平成20年6月11日 教育委員会告示第8号（平成20年7月1日施）

2 名勝の部

次に掲げるもののうち那覇市のすぐれた郷土美として欠くことのできないものであって、その自然的なものにおいては、風致景観の優秀なもの、名所的若しくは、学術的価値の高いもの、又は人文的なものにおいては、芸術的若しくは学術的価値の高いもの

- ア 公園、庭園
- イ 橋梁、築堤
- ウ 花樹、花草、緑樹などの叢生する場所
- エ 鳥獣、魚虫などの生息する場所
- オ 岩石、洞穴
- カ 峡谷、瀑布、溪流、深淵
- キ 湖沼、湿原、浮島、湧泉
- ク 砂丘、砂嘴、海浜、島嶼
- ケ 温泉
- コ 丘陵、河川
- サ 展望地点

3 天然記念物の部

次に掲げる動物植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で那覇市の自然を記念するもの

(2) 植物

- ア 代表的原始林、稀有の森林植物相
- イ 著しい植物分布の限界地
- ウ 代表的並木、社叢、御嶽植物群落
- エ 特殊岩石地植物群落
- オ 代表的原野、海岸、砂地の植物群落
- カ 珍奇又は絶滅に瀕した植物の自生地
- キ 名木、巨樹、奇形木、栽培植物の原木
- ク 洞穴、池泉、温泉、湖沼、河、海等の珍奇な水草類、藻類、蘇苔類、微生物の生ずる地域

		ケ 着生草木の著しく発生する岩石又は樹木 コ 著しい栽培植物の自生地
19	*活用支援	
20	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
21	*改善結果	
22	*処理プロセス	
23	*関連資料2	